

第5学年1組 家庭科学学習指導案

平成28年7月5日(火) 第5校時

児童数 33名 (男子 15名 女子 17名 特別支援学級 女子 1名)

指導者 新井 久美子

場 所 5年1組 教室

1 題材名 かたづけよう身の回りの物

2 題材について

(1) 児童の実態

近年「断捨離」という言葉を耳にする機会も多く、テレビや雑誌などでも「片付け」について特集している。本学級の児童に目を向けると、家庭科が教科の中に加わり意欲をもって学習に取り組んでいる。特に調理学習においては積極的で、家庭での実践に結びついている児童が多い。しかし、実習後の片付けについては、手際よくできる児童と、友達や教師の指示を聞いてからでないと行動できない児童に差がある。また、初めて取り組んだ裁縫も興味を持ち、先日行った授業参観では、多くの保護者に参観していただいている中、集中して学習に取り組むことができた。しかし、授業公開後、さっと片付けられる児童が多い中、保護者に手伝ってもらっている児童もいた。机やロッカーの中の整理・整頓についても日頃から声をかけているが、実際どうすることが整理・整頓なのかが理解できていない児童もいる。

本題材の学習に当たり、アンケートを行った結果、家でよく行う手伝いは、風呂掃除であった。次に食事の準備(テーブルを拭く、食器の準備)や片付け、洗濯物をたたむ等で、家族の一員として行っている仕事も、片付けや掃除であることがわかる。また、「身の回りの整理整頓ができるか?」という質問には、できる(9名)、どちらかと言うとできる(16名)、どちらかと言うとできない(5名)できない(2名)だった。以上の結果から、片付けについて自信をもっている児童が多いことがわかる。「掃除をするときに心掛けていることは?」という質問には、4年生の社会科で学習したことを思い出して、「ゴミの分別をする」、日頃の生活体験から「きれいになるまでやめない」や「隅々まできれいにする」等、掃除の必要性についても十分に理解している。学校の清掃活動については、進んで取り組める児童も多く、担当の教師に褒められることもあるが、取り掛かるまでに時間がかかる児童もいる。係活動や当番活動でも、自分から新しいアイデアを出し取り組む児童と、活動をしない児童と差がある。児童の中には、これまで身につけた知恵や技能を活用し、不用品を使えるものにより変えるといったリサイクルへの関心が高い児童もいる。様々な児童がいる中で、整理・整頓の仕方を理解させ、必要な物が直ぐに見つかり、取り出せることによって、「すっきり生活できる気持ちよさ」を実感させていきたい。

(2) 題材について

本題材では、身の回りの物を片付けることによって、気持ちよく生活できることに気づき、身の回りの整理・整頓の仕方が分かり、身の回りを快適に整えようと主体的に考え工夫できるようにする。児童の身の回りの物、例えば、学習用具、本や雑誌、衣類、洗面所の用具などの整理・整頓を取り上げる。物を使う場所、その使用目的や頻度、大きさ形などによって整理・整頓の仕方を工夫する必要があることが分かり、何がどこにあるのか、必要なものが、直ぐに取り出せるか、空間を有効に使えるかなどの視点から工夫できるようにする。整理・整頓の指導に当たっては、身の回りの物の分類の仕方を考えるなど、児童それぞれの家庭生活に応じて工夫し、実践できるようにする。

(3) 指導について

指導に当たっては、「つかむ」の段階で、まず整理・整頓の必要性を実感させるために、実際に自分の机に入っている学習用具を整理・整頓させ、どんなことを考えながら整理・整頓したのかを発表させる。その上で、ロッカーの中など範囲を広げて整理・整頓させていく。終わった後、自分の机の中や周囲を見渡しどのような気持ちになったかなど、必ず気持ちと結びつけて授業を進めていく。整理・整頓をすると見た目もきれいで気持ちよく生活できる。それゆえ、整理・整頓は仕方なく行うものではなく、目的を考えながら計画的に行うことが大事であること、そのためにはどうしたら良いのかを学習させていきたい。

次に、「追求する」段階では、今までの経験や家で聞いた整理・整頓の工夫、友達の工夫をもとに衣服を実際に整理・整頓させることによって、必要なものをすぐに取り出すことができる整理・整頓の仕方を身に付けさせたい。また、各家庭で整理・整頓の仕方が違うことにも気付かせ、互いの良いところを取り入れ実践へとつなげたい。

「生かす」の段階では、家庭で実践できる期間をおいて行うことによって、確かな「実践力」を身に付けさせたい。整理・整頓の学習を通して学んだ、ゴミの始末や不要品の活用の仕方を工夫し、環境を考えた生活を体験することにより、大切に使用しているか、不用になった物をすぐに捨ててしまっていないかなどを振り返らせ、計画的に使ったり、リサイクルしたりしていこうとする意欲を高め、児童自ら、自分の生活を見直し、工夫する楽しさを味わわせたい。また、ごみの始末については、分別体験が少ないので、どのように分別しなければならないのか、分別の仕方を実際に体験する活動を取り入れ、実践化へとつなげる。

この題材では、常に自分の生活と学習とを関連させながら学習を進めていきたい。

3 研究主題との関わり

本校では、研究主題を「まごころをつくしあい、みんな仲よく、たゆまず学び続ける児童の育成」として研究を進めている。高学年では、「相手の思いを受け止め折り合いのつけられる児童」「自分や友達の個性を理解し合える児童」「お互いのよさを発揮して活動できる児童」を目指す児童像として、全教育活動を通して児童の人権意識を高め、一人一人を大切にすることを推進している。

本時は、人権教育上の視点を「コミュニケーション能力」に置き、自分とちがう考えに対しても寛容であったり、友達と積極的に関わったりして、お互いのよさを認め合い、助け合う中で人間関係の基礎を学ぶことをねらいとしている。具体的には、学習の中で「友達と話し合っ、気付いたこと」や「自分の生活に取り入れられそうなこと」「生活に生かせそうなこと」等を、話し合い伝え合う活動を取り入れる。

4 題材の目標

〈家庭生活への関心・意欲・態度〉

○身の回りの整理・整頓に関心を持ち、気持ちよく過ごそうとする。

〈生活を創意工夫する能力〉

○整理・整頓の仕方がわかり、工夫できる。

〈生活の技能〉

〈家庭生活についての知識・理解〉

○ごみの始末や不要品の活用の仕方を工夫し、環境を考えた生活の仕方がわかる。

5 題材の評価規準と評価方法

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
○身の回りの整理・整頓に関心を持ち、整理・整頓をしようとしている。 (観察・ワークシート)	○整理・整頓の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。(ワークシート) ○ごみの始末や不要品の活用の仕方を工夫し、環境を考えた生活の仕方を工夫している。(ワークシート)	○身の回りの整理・整頓ができる。(観察) ○ごみの始末や不要品を活用することができる。(ワークシート)	○整理・整頓の仕方について理解している。(ワークシート) ○ごみの始末や不要品の活用の仕方を理解している。(ワークシート)

6 人権教育上のねらい (普遍的な課題『コミュニケーション能力』)

話し合い活動を通して、意見や気持ちを適切かつ豊かに伝え合い、わかり合おうとする精神を養う。

7 人権教育上の視点

○互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーション能力を高める。(技能)

8 本時の学習指導 (本時 1 / 4 時)

(1) 目標




〈家庭生活への関心・意欲・態度〉

○身の回りの整理・整頓に関心を持ち、気持ちよく過ごそうとする。

(2) 展開

◎ 人権教育上の配慮

学 習 活 動	・教師の働きかけ ☆指導上の留意点 ◆評価 「 」児童の反応	準備・資料	時間
1 本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> これからゲームをします。私が、「1, 2, 3…」と、何秒か数えます。 机の中から家庭科の教科書を机の上に置いて手をあげてください。そのときに、何秒だったか覚えておきます。 慌てて怪我をしないよう、友達を押ししたりしないようにしてください。 用意、始め！1, 2, 3…。 全員出すことができましたね。早かった人の机の中はどうなっているのでしょうか。 ☆素早く用意できた児童と、遅れてしまった児童の違いに気付かせる。 なぜ、差が生まれたのでしょうか。自分の考えを2分で、プリントに書きましょう。 「机の中が片づいていて、出しやすくなっている。」 「ランドセル (ロッカーの中) に入れたままだった。」 	ワークシート プリント	5

学 習 活 動	・教師の働きかけ ☆指導上の留意点 ◆評価 「 」児童の反応	準備・資料	時間
<p>2 整理・整頓の必要性について考える。</p> <p>3 散らかった原因を考える。</p> <p>4 整理・整頓の仕方、なぜ整理・整頓をするのかを考える</p> <p>5 班で話し合う。</p>	<p>・教師の働きかけ ☆指導上の留意点 ◆評価 「 」児童の反応</p> <p> 「次の時間のことを考えて、直ぐ取り出せるようにしていた。」 「教科書を忘れた。」</p> <p>◆整理・整頓の必要性に気づけたか？（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかり考えることができましたね。 今日のめあてを発表します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>どうして整理・整とんが必要なのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・整理・整頓の意味を考えて、その必要性を考えましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>整 理とは：持ち物を使うかどうかを考え、必要な物を残すこと。 整とんとは：整理した物を使いやすくかたづけること。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て、散らかっていると困ることはどんなことか考えて、プリントに書きましょう。 <p>「出しっ放しにしておく、つまずいて怪我をする。」</p> <p>「探すのに時間がかかる。」</p> <p> 「家の人に怒られる。」 「すっきりしない。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、散らかってしまったのでしょうか。 <p>原因を考えてプリントに書きましょう。</p> <p>「使った物をそのままにしている。」</p> <p> 「物の置き場が、決まっていない。」 「いっぱい、入らない。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、5分間で自分の考えや意見をワークシートにまとめましょう。 <p>☆机間指導を行い、戸惑っている児童に教科書P27の片づいている部屋の写真を参考にするよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整理・整頓の仕方と、なぜ整理・整頓をするのか話し合いました。グループになってください。 	<p>めあて提示</p>	<p>10</p> <p>25</p>
	<p>話し合いの仕方： ①今から「グループでの話し合い」をはじめます。(司会：班長)</p> <p>②整理・整頓の仕方を教えてください。〇〇さんから、お願いします。</p> <p>③ありがとうございました。感想(質問・意見)を言ってください。(全員に)</p> <p>④次に△△さん、お願いします。最後に司会者の意見を話します。全員の発表が終了後、次になぜ、整理・整頓をするのか話し合いました。◇◇さん、お願いします。</p> <p>⑤グループで出された意見を、画用紙にまとめます。</p> <p>「なぜ、整理・整頓をするのか」班で考えたことをまとめます。</p> <p>⑥これで「グループでの話し合い」を終わります。</p>		
	<p>◎相手の考えに共感しながら聞き、自分の考えを相手にわかるように伝えられるようにする。(技能)</p>		

授業の様子

